

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000047		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームいわいずみ		
所在地	〒027-0508岩手県下閉伊郡岩泉町尼額字下坪41-2		
自己評価作成日	平成 23年 7月 8日	評価結果市町村受理日	平成 23年 9月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0393000047&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23年 7月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川など自然に囲まれホームの中の座っている所から四季の移り変わりを実感でき太陽が差し込み穏やかな生活を入居者様一人ひとり思い思いの場所です。また、地域・近所の方々には野菜や山菜を頂いたり、ホーム周りに駐車場などの草刈をしていただき、災害時差し入れ、安否確認等支えられて生活ができています。入居者様と職員のコミュニケーションを大切に入居者様の思いやご家族様の要望をサービスに取り入れ、健康面や安全面に気をつけ、質の向上にむけ職員全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大自然の山ふとに抱かれたゆったりとした感じのホームである。ホーム自体、母体から離れた所にあるため、地域の協力なしには存立はあり得ないとして開設当初から地域との共生に配慮を重ねた結果、現在では入居者ともども地域の大切な一員として認められている。事業所運営でも運営推進会議を誕生会と抱き合わせて開催したり、避難訓練とバーベキューの抱き合わせ、入居者の食事に寿司とラーメンの出張調理をしてもらうなど楽しさとユニークさを持ち合わせた工夫を行っている。基本理念を始め、理念を実践する部署目標も職員全員の話し合いで決定し、入居者に寄り添う介護の基本姿勢をあいまって入居者に安らぎと安心感をもたらしている。また、家族や地域に向けた広報誌は入居者とその担当職員の写真を載せる等親しみのもてる内容となっており家族や地域からも好評である。豊かな自然環境のもと、ホームの日々の暮らしの中で地域との付き合いが根づいていることが実感できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念は、目につく所に掲示し、部署目標も職員全員で話し合い決定し実践に繋げている。	全職員の話し合いによって事業所独自の理念をつくり、目につく所に掲示しながら職員間で共有を図っている。また、理念と同様の方法で「安心・安全なケアの提供」等の三つの部署目標を掲げ理念の実践に繋げている。	※グループホームいわいずみ理念 地域住民と共生しながら個々のベースにあった役割・生活にゆとりを持ち喜びや悲しみを職員と共に共感し、日常生活を送ることができるよう支援する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し回覧板・広報等配布時コミュニケーションを図り地域や町の行事等にも参加し、週三回の買い物で顔なじみになり声をかけてもらうなど交流を深めている。災害時安否確認に来てもらうなど、地域との関係も築いている。	尼額自治会に加入し清掃活動に利用者と職員が参加するほか、交通安全の会で事業所の説明をし、利用者の外出時には地域住民も気にかけてくれる関係ができています。歳末助け合い、ボランティアフェスティバルなど地域行事にも積極的に参加しているほか、広報など地域配布物には住民向けの様々なメッセージを掲載している。	ホーム自体が地域から孤立することなく地域との積極的な交流を図ってきたことにより、日々の暮らしの中で地域との付き合いが根付いており、このことが利用者の安心と事業所への信頼となっている。今後とも継続的な取り組みに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報を年4回発行し回覧している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	マンネリ化しない様工夫した会議を考え、会議では現状やホームの活動を報告している。参加者の活発な意見交換もできている。	メンバーは町民課長、自治会地区会長、消防分団員、民生委員、近隣住民、家族代表と広範囲に渡っており、蛇対策やスプリンクラー取り付け対策等を議題とし、活発な意見交換もなされている。また、会議に参加しやすい家族忘年会等の楽しみ事と抱き合わせて開催する等マンネリ化しないよう工夫している。	参加メンバーが広範囲に渡っている事から会議自体が事業所を知ってもらう役割を担っている。会議もユニークで親しみやすい開催、運営方法をとっており、今後とも継続した取り組みに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し国・県・町の動向を聞いたり、グループホームの様子・意見を伝えたり、町の依頼のボランティアに参加するなど協力関係を築いている。	町直営の地域包括センターが主催する地域ケア会議の場を通じて連絡や相談をしているほか、今回の震災においては、町からの依頼により安否確認のボランティアに参加するなど良好な関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉での拘束にも気をつけ身体拘束とならないよう別な方法を考えケアに取り組んでいる。	法人内に設置している「身体拘束廃止委員会」の研修会や職員同士の勉強会で身体拘束しないケアへの認識を深めている。特に魔の3ロックの内スピーチロックについては、ホームに多くみられる身体拘束として、適切な言葉表現を考えケアに取り組むようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会にも参加し、職員全員で勉強会や業務会議等で意識を持ち虐待防止に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等参加し全職員で把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に問題点や不安のないよう来所できない、ご家族には郵送し電話での説明で問題点等ないように納得を得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・面会・電話・アンケート等に意見要望を聞き反映させている。	運営推進会議や家族面会・電話、ケアプラン見直しの時、広報の通信欄等を活用して利用者、家族の意見要望を聞く機会としている。また、家族アンケートを毎年実施し意見や提案を運営に反映させている。	入居者家族に県外居住者が多いことから年1回程度しか意見・要望を聞く機会がないのが現状。今後は家族面会の在り方や家族同士の交流等を工夫して意見・要望を聞く機会を増やす努力を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や業務会議等で意見や提案を聞き反映している。	年4回の職員個々との面談や月1回の業務会議で運営に関する意見や提案を聞く機会を設けている。また、年1回の法人に対する設備要求は、カンファレンスの場を利用して職員から要望が出され、ソファ購入や屋根の改修等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の面談をもち意見を聞き個人目標を設定し常に向上心をもって、業務に取り組んでいる。備品・物品等のチェック表で確認し、整備修理を定期的に点検し業務がスムーズに行えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会の参加の機会を設け向上に努め実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会・交換研修・会議・親睦会等に参加し情報や意見交換しサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを大切にしながらその中から不安・困りごとなど聞き取り、全職員で共有し不安無く過ごせるよう信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞き常に連絡を取り安心して入居生活できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援に臨機応変に対応できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来ることを見つけ共に行い昔の風習・しきたり等聞き、教えてもらいながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのつながりが絶えないようにホームでの様子など情報を共有し行事等参加いただき、面会・電話等も大切に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人に合いに外出したり、電話や自宅への外出・外泊等支援している。	利用者の友達からの電話を取り持つほか、自宅訪問、お盆の墓参り、外泊など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。町内の仮設住宅に移った友人に会いに行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う同士等座る場所を配慮する等入居者同士関わり合いが難聴で孤独にならないよう仲介に入ったり、利用者が独りになり不安にならないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移った場合に家族と次の施設との連絡調整等パイプ役となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や馴染の人から以前の状況や要望を聞いたりセンター方式の活用や本人の要望・意向の把握に努めている。	センター方式を活用するとともに本人、家族(利用者と一緒に暮らしてきた人)や馴染みの人からも聞いて総合的に思いや意向を把握するように努めている。また誕生会等で本人と家族が過ごす場面からもそれぞれの気持ちを知ることができている。	職員が記載するセンター方式の内容からは利用者への深い洞察と親しみを感じられる。また家族との交流では、かけがえのない親子の心情を生じさせており、今後も利用者の真に望んでいるものに沿った交流場面作りは期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より話を聞き、本人との会話の中から思いをくみ取り業務会議やセンター方式の活用など通して以前の生活歴等に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子等観察し現状の把握に努め一人ひとりの過ごし方や出来る事は継続支援できるよう身体状況把握しを記録し申し送り等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族より要望を聞き日頃の入居者の思いや訴え等をくみ取り業務会議等で意見交換、検討し計画を立てている。	ケアマネージャーが主体となって、家族からの聞き取り、本人との面談、センター方式の必要な部分についての家族の記載などをもとにしてケアプランを作成している。ケアプランは3か月に一回担当職員との意見交換等を通して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やチェック表で申し送り、個別のセンター方式を活用し情報の共有やケアの実践・見直しに業務会議で確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ家族関係や身体状況の変化に合わせてその都度工夫し合って取り組んでいる。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出することで、地域の方々から声をかけられ見守られながら安全に暮らせるように支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や病院関係者との連携・相談に乗ってもらったり適切なアドバイス等適切な医療を受けている。	原則として町内の受診はホームで行い、町外での受診は家族が付き添って通院することになっている。医師には、利用者の状態などについて付き添い職員から口頭で伝えているほか、受診結果については電話で職員から家族に伝えるようにしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時や定期受診時、看護師等に相談し適切な支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医等と情報交換や相談連絡を取り合い安心して治療ができるよう連携を図っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、契約時重度化した時の意向をご家族から聞き、相談し十分に説明し、入居中重度化した際、主治医・ご家族等相談し方針を共有しながら取り組んでいる。	契約時に重度化した場合、ホームは一般浴のため入浴が困難であることを説明し特養に移って頂く事で了解を得ている。また、ターミナルケアについては、職員の半数が経験者である程度の対応力はあるものの看護師がいないこと、訪問看護も未契約であること等から看取りも困難であることを伝え了解を得ている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で講習会・訓練・勉強会等で実践し身に付けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2・3回の日中体制・夜間体制の避難訓練を地域の方や推進会議のメンバー等実施しその都度出た課題を解決できるよう職員全員で話し合い確認して次に繋げて、地域の方々にも協力頂いている。	年2・3回地域住民や運営推進会議のメンバー等の参加のもと、火災を想定した日中・夜間の避難訓練を実施している。訓練はやる度に課題が出てくるが、職員全員で話し合い確認して次につなげるようにしている。また、今年は、はじめての試みとして避難訓練とバーベキューを一緒におこなっており関係者から好評を得ている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員言葉や対応に自覚を持って意識した対応を行っている。	トイレへの声掛けやポータブルトイレを片づける際などに利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。職員も接遇研修等をとおして対応を学んで実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の不安を解決できる・思いや希望・自己決定を出来るような支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望に沿って無理強いしない1日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや季節に合った服装や好みの物を選んだりご家族の持参した洋服や靴などはいて頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や好みや嫌いなものや食べれない物等メニューに配慮して配膳している。器もメニューによって食をそる様変えたり、準備、片づけ等役割が決まっておし率先して行っている。	本人から直接、好き嫌いを聞いて調理の際に配慮し食事を楽しむことができるよう支援している。また、盛り付けや片づけなどを利用者が役割をもち楽しみになるよう工夫し取り組んでいる。今年、初めての試みとしてラーメン・お寿司について専門店にホームまで出向いて調理して提供してもらい利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々一人ひとり水分、食事摂取量等記録し状態を把握し声かけ支援を行っている。むせる人にはとろみや、お粥など、臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行い口腔内を観察し自力で出来る人は、見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄チェック表で確認し早めの声がけや間隔が空いている状態に声掛けし、うまくトイレ使用できない入居者の見守り支援を行っている。	排泄チェック表で利用者一人ひとりの状態を確認し、トイレへの誘導、声掛け、パット交換などを行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた献立を作成し食物や水分にも工夫し、排泄チェックを行い、体操やレクの中に体を動かし予防にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望にあった温度やタイミング等体調を見ながら入浴できるよう支援している。	入浴は、毎日午後としているほか入浴しない利用者には、足浴や清拭をして清潔の保持に努め、翌日にタイミングを見計らって入浴誘導し入ってもらっている。また、季節に応じ菖蒲湯にする等入浴が楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ休息や睡眠が出来るようパジャマに着替えたり、明るさも配慮して、暑いときはクーラー・扇風機寒い時は湯たんぽパネルヒーター等使用し快適に眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院より薬の説明書等個人のファイルに目に付く所に入れ作用・副作用・用法・用量の確認が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意なことや好きな事を継続出来るよう支援し気分転換の買い物や外出・面会・電話等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、外食等戸外に出られるよう支援している。	車の通行も少ないことから自然豊かなホーム周辺を散歩したり、馴染みになった近所の人との会話を楽しんでいる。花見、紅葉等町内は四季を通じて見所がたくさんあり全員でドライブにも出かけている。また、時には回転寿司などの外食を楽しむ事もある。	向かいの世帯では道沿いにコケッココ花等が綺麗に咲いており、野鳥の声や爽やかな風など少し歩くだけでも気持ち癒される恵まれた環境にある。散歩の支援は今後も継続して行ってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、家族希望で事務所で管理しているが欲しいものや購入したい時など自分で財布をもち楽しく買い物ができるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族に電話を入れたり代理での郵便物の対応など支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や家族の写真や手紙など居室に貼り西日が当たる高い窓には遮光カーテンを特注で取り付け温度・光に工夫している。	ホール内に小上り、台所、洗面所が設置され、ソファ、テーブルが配置され、利用者の願いが短冊に書かれた七夕飾りがあるなど季節感も取り入れられている。調査当日は玄関先につばめが巣を作って子育ての準備をする姿が観察される等なごやかな雰囲気が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・椅子等置き場所を工夫し、利用者気の合う同士楽しく過ごすことができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものやご家族のプレゼント等を家族の名前を入れ飾ったり、仏壇や遺灰など本人が以前使い慣れたものを置いて心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、位牌を置いたり、家族の写真を飾ったり、使い慣れた持ち込みの衣装ケースが置かれる等それぞれ利用者が安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など分かり易く表示してありバリアフリーで安全に歩行でき、食卓の席も分かり易くなっている。		